

福岡大学医学会ニュース

福岡大学医学会
福岡市城南区七隈
福岡大学医学部内
印刷 福岡印刷株式会社
福岡市博多区東那珂一丁目10-15

福岡大学病院十周年記念特集号

福岡大学病院十周年を終えて

— 医学部、病院に新しい波を —

病院長 朝長正道



福岡大学病院は昨年八月で十年を過ぎました。十二月には記念式典、記念講演会をして福岡大学病院十年史の発行を無事に済ませることができ、ご協力いただいた方々に感謝いたします。一つの節目を終えたと安堵しております。しかし、病院長として引き続き奮闘することになり、責任の重大さを噛みしめながら、医学部、病院の発展のため一杯の努力をする積りです。皆様のご協力をお願いいたします。

福岡大学病院十年史の巻頭に私の考えを述べておきます。現状をいかに認識し、将来への抱負を抱えているのか、お判りいただけますか。福岡大学医学部、病院はともに十年を過ぎ、いまや大変厳しい転機にあります。医師増徴、医療環境などの外的要因による危機感の当然ですが、このような問題に取り組む医学部、病院の内的環境への不安が私の危機感をさらに増幅させます。この危機感を乗り越え、次の世代へ誇りをもって医学部、病院を譲り渡すために大事なことは何か。常日頃考えておられますか。述べたいと思います。私の独断と偏見、考え過ぎ、言い過ぎ、また反対意見や反発などありません。医学部、病院の将来を憂える気持ちに免じてお許し願います。

医師と弁護士に良い友人を持つことは幸せであると言われます。確かにそうだと思います。しかし見方をすれば医師と弁護士は人の弱点を握り、弱味につけこむ職業だからこそそういわれるのでしよう。一枚の免許証が人間を変えてしまいます。医師としても人間としても未熟な者が偉くなったように錯覚し、尊大になります。そして医師集団が社会から遊離したエリート集団として存在しようとする思い込み、自分達の活動は奉仕ではなく施したという感情が抜き難く存在します。このような意識は対社会、对患者のみならず他の医療従事者に対しても同様です。医療は医師あるいは医学だけではできません。このことはつねづね私が申している通りです。自然、社会、人文科学すべての人間活動が集合されたものが医療であり、その実践の場が病院であり、診療所であり、地域社会です。そして医師は数多くの職種が可能なことによって医療活動が可能なのです。しかしながら多くの医師は自分だけで医療ができることに錯覚しています。たしかに医師はいかなる状況、いかなる時代でも医療のリーダーであらねばなりません。人格、識見ともに真に尊敬に値する医師だけが評価され、生き残る時代が間近にやってくる感があります。

大学病院の神話は崩れつつあります。大学病院以上の医療レベルを持った一般病院、専門病院はすでに数多くあり、また社会構造、疾病構造の変化とともに cure から care の時代へ移行し、現状のままでは大学病院の役割は相対的に小さくなり、大学病院だ、大学病院勤務だという優越感も過去のものとなるでしょう。大学病院

が今後も医学、医療の中心として生き残る方策は、地域に密着しつつ高度医療の先駆者として、先ず高度医療の担い手としてだけでなく、総合的医療の実践と教育を研究の場として変貌していくことである。医学部については同じことが言えます。社会も医療も、医学も常に進化していることは知りながら、過去の栄光をその幻影から脱却できず、周囲のものすべてを召使いであるという思い込み、医学部は特別であるというエリート意識、おそろく社会からは鼻持ちならないと思われているに違いない。そしてそれに気づかぬ医師集団の閉鎖性と排他性、これもまた重大な問題であり、諸悪の根源は、医師集団の頂点にあると自負している大学の中の一員として謙虚であること、学ぶべきであり、

二、医学部、病院の組織変革と若返り
変化なくして進歩はない、変化することが進歩に結びつく、いつも言っています。変化を先取りし、変化に対応して自らを変えるだけの柔軟性がなければ進歩も発展もなく、退歩あるのみです。今の福岡大学医学部、病院にその柔軟性があるでしょうか、残念ながら極めて少ないと言わざるを得ません。ミニ九九大のコピー、九大の悪い所だけが強調されている、と言われて十年、また私学の自由性を叫びながら十年、一体何が変ったのか。十年の歳月は私達の精神を運行させただけのようにすら思えます。大学が安住の地として求められるようになれば、もはや大学としての存在価値はありません。また大学を安住の地として

の研修メニューから志望に応じて選択させる。救急部、ICUおよび第二病棟は全員ローテーションさせ、定員を守り研修密度を高める。最低生活を維持できる以上のアルバイトは一切禁止する。など今後早急に検討せねばなりません。

四、第二病棟、関連病棟の整備
福岡大学病院を中核とする福岡大学医療システム構想については以前から折にふれ話しておりましたが、それぞれの役割を持つた病院群、施設群を有機的に関連させ、互いに助け合いつつ、より広域での総合的医療システムを確立して地域に奉仕し、この活動の中で教育や臨床研究を進展させていく考えです。中核となるべき福岡大学病院の拡張、整備は昨年から着手しました。第二病棟、関連病棟の獲得、整備については数年にわたる努力により計画通りに進められたことが多く、残念に思っております。

しかしながら、ご存知のように今般筑野市に第二病棟を設置することから理事会で承認されました。解決すべき問題はなお残っておりますが、医学部、病院にとって将来の命運を託す事業であり、またこのようなチャンスは二度とないと考えられますので、あらゆる困難を乗り越え、地域のニーズに応える立派な第二病棟を育てて行かねばなりません。本日は異なる発想で組織、運営を考え、医学部、病院団結して事に当たっていただきたいと存じます。おそろくかならず厳しい状況で運営せねばならないでしょうが、その厳しさが本院にフィードバックされ、良い影響を与えることを願っております。

関連病棟の整備も緊急かつ重要な課題です。糸島医師会病院、関連化構想があるいくつかの病院とより深く、強固に結びつき、お互いに補完し合いつつ、双方の発展を計らねばなりません。近隣大学の関連病院確保、獲得への熱意は極めて高く、後発の私達は医学部、病院一体となって努力せねば太刀打ちできないでしょう。自らの片手片足をいでも確保していく

福岡大学病院十周年記念行事について

朝長正道



記念式典にて、式辞を述べる朝長病院長

昭和四十八年八月四日に福岡大学病院が開院し、本年で十年目を迎えた。これを記念して、去る十二月三日（福岡銀行本店大ホール）福岡市中央区天神二丁目三番一（号）において、福岡大学病院開院十周年記念行事が行われた。

記念式典は、来賓など約一五〇名が出席、午後一時三十分より内田病院事務長の開式の辞に始まり、まず私は、病院長として式辞の中で「よい臨床医を育成することを理念とし、まず福岡大学病院にとりまして、本日より卒後教育であるいは生涯教育ができる場を整

備していくことが、何よりも緊急かつ重要な問題であろうと痛感しております。地域の中に根をおろしながら社会のニーズにこたえつつ、福岡大学病院の輪を広げていきたいと念じております」と述べた。

ついで、瓦林理事長より「十年という節目を迎えたことを期に、病院の増築と改修を進めておられます。併せて将来の医療を展望した病院組織と運営の改革、合理化を推進していく所存でございます。また、臨床研究奨励金制度を設けて地域各層にご支援を仰ぎ、この基金によって診療、教育、研究のバランスのとれた充実を図ることに、福岡大学病院開院十周年記念行事の趣意を込めてお祝い申し上げます。また、伊東学長は「この病院内十年の中に福岡大学五十年の伝統とエネルギーが凝縮しているのをごいいます。福岡大学の全員の全職員が仲間として、一体となつて病院を守り育ててまいりました。今後この結核は決して崩壊しません。どうか先輩の方々がその後の見通しなどについて極めて明快なお話があり、始終聴衆を魅了した。

の研修メニューから志望に応じて選択させる。救急部、ICUおよび第二病棟は全員ローテーションさせ、定員を守り研修密度を高める。最低生活を維持できる以上のアルバイトは一切禁止する。など今後早急に検討せねばなりません。

四、第二病棟、関連病棟の整備
福岡大学病院を中核とする福岡大学医療システム構想については以前から折にふれ話しておりましたが、それぞれの役割を持つた病院群、施設群を有機的に関連させ、互いに助け合いつつ、より広域での総合的医療システムを確立して地域に奉仕し、この活動の中で教育や臨床研究を進展させていく考えです。中核となるべき福岡大学病院の拡張、整備は昨年から着手しました。第二病棟、関連病棟の獲得、整備については数年にわたる努力により計画通りに進められたことが多く、残念に思っております。

五、財団法人臨床研究奨励基金の設立について
福岡大学病院十周年記念事業の一つとして財団法人臨床研究奨励基金の設立を企画しました。おそろく本年度にはかなりの基本金を有して設立できると期待してまいりました。来年度からは基本金の果実で臨床研究に対していくばくかの援助が可能になると思っております。福岡大学医学部、病院を取り囲む環境は内外ともに極めて厳しいものがあります。ここ数年のわれわれの対応が医学部、病院の将来を決めることになりました。われわれの責任は重大です。若い力を結集した新しい波の高まりを切望します。

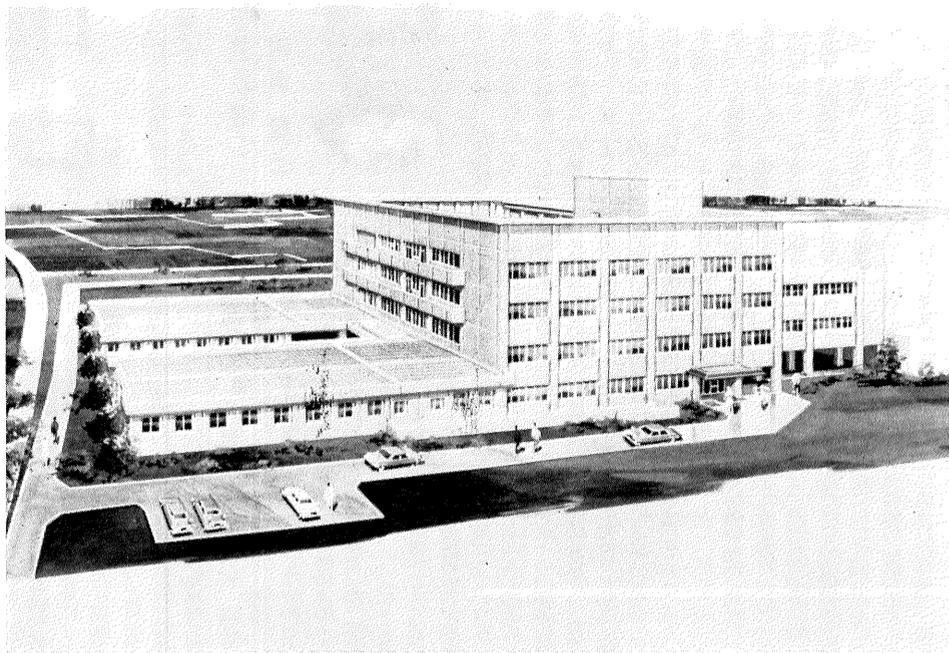
大学病院の発展のために一緒に歩いていただきますことを心からお願い申し上げます。さらに菊池医学部長からは、「病院開設のころは、果してこの病院が一体どういうふうな形で成長していくものだろうかという不安がかなり強くあったわけですが、また一方では医学部の設立に参加した者としても、いかに立派なものにつくり上げようかというふうな心構えで、病院の発展に努力してきたつもりであります。それが今日のようになつたものと考えています」と、それぞれ挨拶がなされました。

開式の辞	朝長正道
挨拶	瓦林 潔、伊東 正則、菊池 昌弘
祝詞	占部治邦、阿部輝明
謝辞	真村 恂
閉式の辞	

記念式典式次第

福岡大学病院増築・改修計画

朝長正道



A棟(西別館)完成予想図

昨年十月から病院西別館の新築の要求にこたえるには一つの病院で五〇〇床の病院を二つ持つ方が有効です。

以上の様な考えから、福岡大学病院が福岡大学医療システムの中心として機能するためには、高度診断、治療技術の発展を促すために中央施設を拡充せねばなりません。

検査部、放射線部その他の診断部門、手術部、ICUなどの治療部門、そして地域奉仕、教育としての救急部門、またこれらの機能を支える補助部門の拡充が最優先されるべきであります。また、今後ますます厳しくなる医療経済の中では、有限の人的、物的資源を有効に利用することを考える第一線、すなわち患者さんに接する部門への重点配置を行い、医療レベル向上および財政的健全化を計ることが必要になります。電算化、検査部門の一部その他の業者委託などはそのような施策の一環です。

今日の計画が完成すれば、引きつづき、将来構想として外来部門その他の中核病院として必要な増築を直ちに検討せねばならないと考えております。ご存じのように第一病院設置は何か可能となりましたし、いくつかの関連病院も同時に整備しつつあります。さらに慢性病院、老人病院あるいはリハビリ病院、ホスピスなどの整備も検討しております。数年のうちには福岡大学医療システムは大きく発展できるであろうと確信しております。

たえまなく変化し、発展しつつある医学、医療に対応できる病院と組織をつくるためには自らを変えていくことが必要です。各科、各部の壁を打破し、既得権意識を捨て、新しい病院、新しい組織づくりへ皆様の協力をお願いいたします。増築、改修の内容については教授会、部長会その他で発表しておりますので附図でご理解いただけると思います。

昨年十月から病院西別館の新築の要求にこたえるには一つの病院で五〇〇床の病院を二つ持つ方が有効です。

以上の様な考えから、福岡大学病院が福岡大学医療システムの中心として機能するためには、高度診断、治療技術の発展を促すために中央施設を拡充せねばなりません。

検査部、放射線部その他の診断部門、手術部、ICUなどの治療部門、そして地域奉仕、教育としての救急部門、またこれらの機能を支える補助部門の拡充が最優先されるべきであります。また、今後ますます厳しくなる医療経済の中では、有限の人的、物的資源を有効に利用することを考える第一線、すなわち患者さんに接する部門への重点配置を行い、医療レベル向上および財政的健全化を計ることが必要になります。電算化、検査部門の一部その他の業者委託などはそのような施策の一環です。

今日の計画が完成すれば、引きつづき、将来構想として外来部門その他の中核病院として必要な増築を直ちに検討せねばならないと考えております。ご存じのように第一病院設置は何か可能となりましたし、いくつかの関連病院も同時に整備しつつあります。さらに慢性病院、老人病院あるいはリハビリ病院、ホスピスなどの整備も検討しております。数年のうちには福岡大学医療システムは大きく発展できるであろうと確信しております。

たえまなく変化し、発展しつつある医学、医療に対応できる病院と組織をつくるためには自らを変えていくことが必要です。各科、各部の壁を打破し、既得権意識を捨て、新しい病院、新しい組織づくりへ皆様の協力をお願いいたします。増築、改修の内容については教授会、部長会その他で発表しておりますので附図でご理解いただけると思います。

A棟(西別館)建設規模

	本 体		渡り廊下	
	m ²	坪	m ²	坪
PH階	33.67	10.19		
R階	126.38	38.23		
4階	1,143.08	345.78		
3階	1,138.66	344.44	48.98	14.82
2階	1,138.66	344.44	48.98	14.82
1階	1,984.44	600.30		
B1階	1,638.85	495.75		
合計	7,203.74	2,179.13	97.96	29.64
延床面積=7,203.74+97.96=7,301.70m ² (2,208.77坪)				

西別館
鉄筋コンクリート造 地下1階、地上4階
(ペントハウス付) 建て

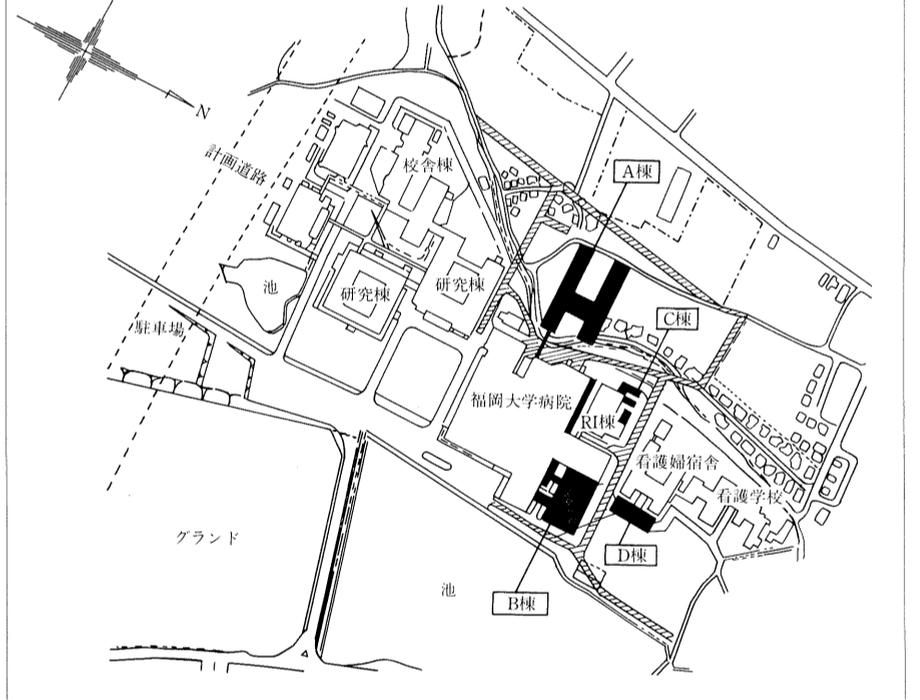
渡り廊下
鉄筋コンクリート2階建て

面積
建築面積 2,501.71m² (785坪)
延床面積 7,301.70m² (2,208.77坪)

建物用途

増築工事	棟	用途	
		階	用途
A棟(西別館)		地階	エネルギー機械室、中央監視室
		1階	精神科病棟(60床)
		2階	理学診療科(リハビリテーション部)
		3階	管理部門
渡り廊下		既存病院と西別館との連絡通路	
		4階	臨床検査分室、電子計算機室
B棟		地階	材料部・他
		1階	救急部
C棟		1階	放射線部(ライネアック・RI部門)
		1階	男子更衣・職員更生施設・休憩(含委託業者)
D棟		2階	看護婦更衣・仮眠・女子更衣
		3階	レジデント室
内部改修工事(既設病院棟)		地下1階	寝具消毒、配送センター・他
		1階	放射線部・救急部・輸血サービス・管理サービス部・他
		2階	検査部・手術部・ICU部・他

拡張計画(概要図)



医師の役割はどう変わるか

NHKチーフディレクター 行天良雄

来世紀までの十数年という時間の中で確実に変わっていくものとして、一つは九九%以上の確率でやってくる高齢化社会、そして高齢化国家への突入ともう一つは、高度情報システムの確立である。

今までの感覚と医療費の公的保障は相当厳しくなる。これまで患者さんへの経済的配慮をほとんど必要としない「装置産業」として悪口をいわれるような形で、一つのトータル工業化システムの中で医療が行われてきたが、曲り角を迎えた。支払保障、しかも一方医師の全面裁量権を認められている国は、世界広しといえども日本だけである。

日本の情報化は、日本自身が生きていくために仕方のない方途であるが、当然この情報化革命といふものは、世界の国に先がけて相対的に進んでいる。このスピードで日本の構造を変えていく宿命を背負っている。このことは、在来の医療システム、医師の役割、そして地域医療に根本的な大きな影響を与えることは必至である。

日本は単純な個々の医療だけでなく、非常に大きな国家的な医療制度の中で現在医療が動いている。この背景に医師がどうアプローチしていくかが問題となる。

高齢化社会となり、死亡の原因も一位は癌、二位は脳卒中、三位が心臓病と老化をベースにする疾患群に変わってきたが、最近「事故」が新たに加わってきた。さらに在宅死亡が減少し、施設内死亡が増えつつある。これは老人に対して家でケアができなくなったことによる、いわゆる社会的死とその後、これに対する対応が、先進国では医師の役割の一つとなっている。

長生きが普遍化すると、医療より当座年金優先の福祉時代に移行する。今までの医療構造は、私的な保険あるいは、一部医療費の負担が入って来るを得ない。

これは、患者側の医療機関あるいは医師に対する選択が明確に始まるので、質の問われる競争がなされる。その質が素人の質か、あるいは情報化に支えられた本来の質の見方であるか、これは今後を左右するであろう。

情報化は種々のとらえ方があるが、近代の医療に関して画期的に変えたといわれるCT、NMRも第三世代のコンピュータ技術といわれている。第四世代は人間の能力を評価されたコンピュータ上の能力を評価されたコンピュータ、第五世代は初めて判断する、考えるという分野にメスをいれ、いわゆるバイオエレクトロニクスを中心とする第五世代コンピュータが人類の世紀を変えるであろう。これから驚異的な情報化の時代に移行する。これは、全く経済的な裏付けがないと動かないので、今後の日本がどのような環境の中で経済性を維持できるかというところで、日本の情報化の進路が決まってくる。

今後大事な点は、やろうと思えばやれる技術が人類は確実に持つてしまった中で、技術の競争、技術の争い、あるいは技術を使う技術者としての医師よりも、むしろ技術の中で最も重要なハイタッチと人間関係の確保をどう残すか。医師の役割はまさに、その生存と運命を問うような時代に移行するであろう。

福岡大学医学部

昭和58年度の主な行事

- 58年7月23日 第35回西日本医科学生体育大会
- 9月24〜25日 第76回医師国家試験
- 10月1日 医学部二年次生オリエンテーションキャンプ(於唐津シーサイドハイイツ)
- 10月29日 第10回医学部慰霊祭
- 11月5日 第76回医師国家試験合格発表(18名合格)
- 12月1日 新医学部長に菊池昌弘教授が就任
- 12月3日 福岡大学病院開院10周年記念行事開かる(於福岡銀行本店大ホール)
- 12月11日 初の医学部推薦入学試験行わる(41名受験、20名合格)
- 59年2月11日 医学部入学試験(初の地方試験も同時実施)
- 3月21日 卒業式

役員改選行わる

本学は、任期満了に伴う学部長など役員改選を昭和五十八年十一月十日午前十時三十分から行った。医学部関係の役員および各種委員、世話人は左記のとおり。

- 大学関係役員・委員
 - 学部長 菊池昌弘
 - 病院長 朝長正道
 - 副病院長 奥村 恂
 - 看護専門学校長 小田 慎一
 - アニマルセンター長 岡田秀親
 - 医学部R1施設長 池原征夫
 - 評議員 奥村 曾田
 - 運営協議員 奥村 曾田
 - 教学協議員 重松 曾田
 - 教務委員 松岡 曾田
 - 学生部委員 今永 水
 - 図書委員 永田 水
 - 図書委員 古川 水
 - 教育職員資格審査委員 竹林 敏
 - 医学部病院発設計画検討委員会 菊池 朝長 重松 曾田 荒川 奥村
 - 大学院委員 坂本 水
 - 大学院学務委員 坂本 水
- 電子計算センター委員 池原 重松
- アニマルセンター委員 池原 小野 黒岩 古川 浅尾
- R1センター委員 池原 小野
- 医学部R1施設運営小委員 利谷 黒木 浅野 桂木 池田(正)
- 学生懲戒委員 三好
- 公害防止及び廃棄物処理委員 池原 江崎 浅野 小野 黒田(吉) 黒田(健)
- 国際交流委員 黒岩 満留
- 医進課程委員 西園 三好 木船 田川
- 毒劇薬・毒劇物危険防止委員 影浦
- 医学部各種委員・世話人 朝長、(学部長) 菊池、(病院長) 曾田、(教務委員) 松岡、(前教務委員) 菊池、(学生部委員) 今永、(大学院学務委員) 池原、(図書委員) 永田、(教育職員資格審査委員) 竹林、(各学年担任) 木船、曾田、田川、小野、江崎、井上、高岸、永田、坂本(公)、竹林、浅尾、(特研) 利谷 予算世話人 朝長、(学部長) 菊池、(病院長) 曾田、(教務委員) 松岡、(図書委員) 永田、(大学院学務委員) 池原、(総合研究室世話人) 三好、岡田、竹林、古川、池原、永田、小野、(基礎、臨床各一名) 松岡、今永、志村、大塚 助教、講師選考委員 (学部長) 菊池、(教育職員資格審査委員) 竹林、(基礎、臨床各四名) 池原、重松、古川、松岡、荒川、井上、坂本、西園 総合試験委員 松岡、(総合試験世話人、六年担任) 浅尾、(基幹科目) 奥村、坂口、日吉、浅野、久野、西丸、荒川、池田、広木、福田、吉田、内藤、瀧井、児玉(武)、志村、山本(博)、有馬、大塚、児玉(好)、白日、櫻、田中、比嘉、福島、浅尾、木村、有吉、松崎、小田、満留、白川、金岡、清水、熊本、江崎、畝、重松、(選定科目) 西園、牛島、坂本(公) 研究所小委員 (基礎、臨床各三名) 重松、田川、田口、坂本(公)、田中、内藤 図書館分館小委員 (基礎、臨床各一名) 赤羽、坂本(康)、松崎、吉田、(病院) 牛島 総合研究施設 (人間生物系) 三好、(感染生物系) 岡田、(病態構築系) 竹林、(病態機能系) 古川、(病態生化学系) 池原、(社会医学系) 永田、(フオートセンター) 小野 クラス担任 (一年) 木船、(二年) 田川、(三年) 江崎、(四年) 高岸、(五年) 坂本(公)、(六年) 浅尾、(特研) 利谷

人類の福祉のために

第10回医学部慰霊祭

三好 萬佐行



菊の香につつまれて十月二十九日福岡大学医学部は記念すべき第10回慰霊祭を福岡斎場で行った。装重な調べの流れる中、献燈献花について導師・法中の入場を迎えたのは遺族・来賓の方々、本学の関係者など約六〇〇名であった。今回祀られた霊位は系統解剖に献体された六五、および病因究明のために病理解剖にご賛同下さった一四三の合計二〇八柱であった。医学の研究・教育にあつては病の治療や衛生の充実を通して人類の福祉を願うことを究極の目的としているのであるから、その対象である人体の構造や病の在り様を良く知っておかねばならない。西園医学部長は祭詞を述べると、「解剖を通して真摯に学び、それを大きく活かして行くことが献体いただいた方々や、ご遺族のお心に報いることだ」と信じ、私共一同この尊いお心にこたへよう勉学、研究、診療に一層の精進をする」と誓いを新たにされた。

海外・国際学会研究発表

(発表者名：①題目 ②学会名 ③開催地 ④年月日)

- 黒木政秀・黒木 求・古賀芳子・松岡雄治 (生化学第一)
 - ① Monoclonal antibodies to carcinoembryonic antigen (CEA): Antibody specificities and antigen characterization. ②5th International Congress of Immunology ③京都 ④58.8.21~58.8.27
- 黒木 求・黒木政秀・一木貞徳・松岡雄治 (生化学第一)
 - ① Effect of tunicamycin of the production of carcinoembryonic antigen by a human tumor cell line. ②5th International Congress of Immunology ③京都 ④58.8.21~58.8.27
- 一木貞徳・黒木政秀・黒木 求・松岡雄治 (生化学第一)
 - ① Comparative studies of the production and immunochemical properties of CEA and NCA synthesized by various human tumor cell lines. ②5th International Congress Immunology ③京都 ④58.8.21~58.8.27
- 松岡雄治・黒木政秀・古賀芳子 (生化学第一)
 - ① Differences in antigenic reactivities of purified preparations of CEA and related antigens upon different immunoassay systems for CEA. ②11th Annual Meeting of the International Society for Oncodevelopmental Biology and Medicine. ③スウェーデン ④58.9.11~58.9.15
- 池原征夫・三角佳生・織田公光・高見 昇(生化学第二)
 - ① Accumulation and Delayed Secretion of Unprocessed Proteins by Monensin in Cultured Rat Hepatocytes. ②UCLA Symposium: "Protein Transport and Secretion" ③アメリカ ④58.4.23~58.4.30
- 池原征夫・三木幸一郎・三角佳生・緒方繁憲(生化学第二)
 - ① Effects of Monensin on Biosynthesis, Intracellular Processing and Function of Transferrin in Cultured Rat Hepatocytes. ②6th International Conference on Proteins of Iron Storage and Transport ③札幌 ④58.7.11~58.7.14
- 菊池昌弘 (病理学第一)
 - ① The pathology of virus-positive T-cell leukemia/lymphoma (ATLL). ②The XII World Congress and Clinical Pathology ③東京 ④58.10.13
- 岡田秀親 他 (微生物学)
 - ① Prevention of complement

- activation on the homologous cell membrane of nucleated cells as well as erythrocytes. ②5th International Congress of Immunology ③京都 ④58.8.21~58.8.27
- 岡田秀親 他 (微生物学)
 - ① Glycophorin inhibits activation of the complement pathway of serum homologous to the glycophorin. ②International Symposium on Frontiers of Complement Research ③三重 ④58.9.1~58.9.3
- 寺崎邦生 (寄生虫学)
 - ① Light microscopic observation on reproductive Organs of whole mounted common liver fluke. ②The 14th Seminar on Tropical Medicine ③韓国 ④58.6.10
- 波部重久 (寄生虫学)
 - ① Interspecific hybrids in Paragonimus. ②The 14th Seminar on Tropical Medicine ③韓国 ④58.6.10
- 永田武明 (法医学)
 - ① Signification of inflammable substances in burned bodies. ②Second Scandinavian Conference on Forensic Science ③スウェーデン ④58.8.16~58.8.18
- 永田武明 (法医学)
 - ① A fetal case of tetrahydrofuran. ②1983, The Internal Association of Forensic Toxicologists Meeting ③西ドイツ ④58.8.21~58.8.26
- 川浪祥子 (内科学第一)
 - ① Solubilized acetylcholine receptor protein from fetal calf thymus. ②9th Meeting of the International Society for Neurochemistry ③カナダ ④58.7.10~58.7.15
- 滝井昌英・重岡秀信・乙成孝俊(内科学第二)
 - ② The Treatment of Infective Endocarditis with Oral Penicillins (Amoxicillin and Bacampicillin)—Pharmacokinetics and Clinical Studies. ②第13回国際化学療法学会 ③オーストリア ④58.8.28~58.9.2
- 向野義人 (内科学第二)
 - ① The Effects of Ear Acupuncture on Rats With Hypothalamic Obesity. ②World Congress on Scientific Acupuncture ③オーストリア ④58.10.17~58.10.20
- 佐々木 淳(内科学第二)
 - ① Decreased Concentration of high density lipoprotein cholesterol in schizophrenic patients treated with phenothiazines. ②The 8th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism. ③アメリカ ④58.7.27~58.7.30
- 西園昌久 (精神医学)
 - ① Under-graduate Psychiatric Education in Japan. ②第7回世界精神医学会議 ③オーストリア ④58.7.11~58.7.16
- 西園昌久 (精神医学)
 - ① Aspects of Social Psychiatry in

- Japan—From the View Point of Psychiatry— ②第10回世界社会精神学会総会 ③大阪 ④58.9.4~58.9.8
- 小林隆児 (精神医学)
 - ① Chronological Changes in The Hospitalization and in The Aftercare of Schizophrenic Patients in Japan. ②第10回世界社会精神学会総会 ③大阪 ④58.9.4~58.9.8
- 堀田博明 (精神医学)
 - ① Factors in Attaining A High Level of Social Adjustment for Schizophrenics. ②第10回世界社会精神学会総会 ③大阪 ④58.9.4~58.9.8
- 中島秀喜 (皮膚科学)
 - ① A Staphylococcal Proliferative Factor Associated with Toxic Shock Syndrome, TSS-1, Causes Multi-Organ Injury in Rabbits. ②The 5th International Congress of Immunology ③京都 ④58.8.21~58.8.27
- 児玉好史(外科学第二)
 - ① Early Gastric Carcinoma—Growth Patterns and Prognosis, Cytophotometric DNA analysis and Detection by Mass Survey. ②International Congress on Advances in the Chemotherapy of Gastrointestinal Cancer Cologne ③西ドイツ ④58.10.28~58.10.29
- 夏田康則 (外科学第二)
 - ① Delayed anastomosis of cervical esophagus in bypass operation for unresectable esophageal cancer. ②2nd International Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus ③イタリア ④58.10.3~58.10.7
- 調 重昭 (耳鼻咽喉科学)
 - ① Functional Test for the Otolithic Organ. ②第5回アジア・オセアニア耳鼻咽喉科学会 ③韓国 ④58.10.11
- 清水 博・金岡 毅・田口 星・白川光一(産科婦人科学)
 - ① Fetal catecholamines in high-risk pregnancies. ②9th Asia-Oceania Congress of Obstetrics and Gynecology ③韓国 ④58.9.8
- 金岡 毅・松岡 功・田口 星・白川光一(産科婦人科学)
 - ① Placental respiratory studies in acute goat model. ②15th Congress of the Society for the Study of Pathophysiology—Organization Gestosis ③イスラエル ④58.9.12
- 都 温彦 (歯科口腔外科学)
 - ① Reliability of classification based on discriminative criteria for the fainters and the nonfainters by the fainting-questionnaire in a dental clinic. ②VIIth World Congress of the International College of Psychosomatic Medicine ③西ドイツ ④58.7.17~58.7.22

教室 便り

学位取得

原田健一郎(病理学第1) 福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。

学位論文「豚動脈静脈系内皮細胞及び平滑筋細胞に関する Cyclic Nucleotide の生化学的分析を含む光顕・電顕組織化学的研究」

丹生恵子(小児科第1) 福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。

学位論文「血小板減少性疾患における血小板膜糖蛋白質の分析」

河野正司(耳鼻咽喉科第1) 福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。

学位論文「眼球運動を指標とした傾斜刺激による動揺病の研究」

福和正(耳鼻咽喉科第1) 福岡大学に提出。昭和五十八年三月二十四日付で医学博士授与。

学位論文「耳鳴の音色の因子分析的研究」

三井徹次(病理学第1) 福岡県対力協会より助成金「末梢細胞腫瘍(ATLを以て)皮膚浸潤の臨床免疫病理学的検討」

藤澤保仁(泌尿器科助手、現非常勤講師) 重松賞(昭和五十八年度西日本泌尿器科最優秀論文)

「カルシウム含有尿結石症の病態生化学的研究」

宮田純一(病理学第1) アメリカ(Cincinnati)大学④系球性腎炎の臨床病理学的研究④58・8・5・59・8・4

丹生恵子(小児科第1) アメリ

受賞

重松賞(昭和五十八年度西日本泌尿器科最優秀論文)

「カルシウム含有尿結石症の病態生化学的研究」

海外出張

河田 清(生理学第1) ①西ドイツ(Helgoland)大学②他②共同研究および視察⑤8・6・58

池原征夫(生化学第1) ①アメリカ(UCLA)②ボストン発表⑤8・4・22~58・5・6

古川達雄(薬理学) ①フランス(ニース)②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席⑤8・6・58

菊池昌弘(病理学第1) ①西ドイツ②日本③ヨーロッパ細胞性リンパ腫組織学的検討会出席⑤8・8・30~58・9・20

寺崎邦生(波部重久(寄生虫学)①韓国②第十四回熱帯医学セミナー出席⑤8・6・6~58・6・12

奥村 恂(藤田晃一(内科学第1) ①アメリカ② Conference on Peptic ulcers and H₂ receptor antagonists 出席⑤8・8・25~58・8・29

荒川規矩男(内科学第1) ①フランス②局所血流に関する国際会議出席⑤8・8・29~58・9・6

吉田 稔(内科学第1) ①中国②「臨床呼吸器生理及び呼吸器病学的」に「講義」中国医科大学に「中国辽宁省沈阳市」⑤8・9・21~58・9・28

海外留学

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

滝井昌良(内科学第1) ①オーストリア②第十二回国際化学療法学会出席⑤8・8・28~58・9・9

佐々木 靖(内科学第1) ①オーストリア②第七回カーディック・ペーシング・シンポジウム出席⑤8・4・28~58・5・13

向野義人(内科学第1) ①オーストリア② World Congress on Scientific Acupuncture 出席⑤8・10・17~58・10・26

佐々木 淳(内科学第1) ①アメリカ② The 8th International Symposium on Drugs Affecting Lipid Metabolism 出席⑤8・7・27~58・7・30

西園昌久(精神医学) ①オーストリア②第七回世界精神医学会会議参加のため⑤8・7・6~58・7・28

四田洋子(進藤三郎(徳川雄一郎(精神医学) ①スウェーデン②第十三回国際精神分析学会議参加のため⑤8・7月下旬

小田 慎一(小児科第1) ①アメリカ②カリフォルニア大学③心血管研究所(CVRI)二十五周年記念シンポジウム(新生児呼吸・循環生理学の新知見を吸収するため)⑤8・10・17~58・10・21

津留 徳(小児科第1) ①西ドイツ②ハノーバー③第六回国際小児腎臓病シンポジウム出席⑤8・8・29~58・9・2

利谷昭治(皮膚科第1) ①韓国② The 3rd Korea-Japan Dermatological Joint Meeting 出席⑤8・10・17~58・10・10

後藤勝弥(放射線科第1) ①アメリカ②カナダ③神経放射線医学最新技術の修練⑤8・10・1~58・11・30

高岸直人(整形外科第1) ①アメリカ②第二回国際関節症学会出席⑤8・5・28~58・6・6

松崎昭夫(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会⑤7・6・7~58・5・7

木田浩隆(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会出席⑤8・9・18~58・10・1

調 重昭(耳鼻咽喉科第1) ①韓国②第五回アジア・オセアニア耳鼻咽喉科学会出席⑤8・10・18

鼻咽喉科学会出席⑤8・10・11

金岡 毅(産科婦人科学) ①イタリヤ②第十五回妊娠に関する病態生理学会(Organization Gestosis)に出席⑤8・9・8~58・9・23

清水 博(産科婦人科学) ①韓国②第九回アジア・オセアニア産婦人科学会出席⑤8・9・4~58・9・9

壇 健二郎(麻酔科第1) ①スウェーデン③ Regional Anesthesia, Past, Present and Future—A Tribute to Kylocaine 35 Years—研究⑤8・6・6~58・6・16

温彦(歯科口腔外科第1) ①西ドイツ②第七回国際心身医学会発表会③ヨーロッパ歯科口腔外科現状の視察⑤8・7・16~58・8・9

昭和五十八年四月以降、本学医学科は、本学医学科を訪問した外国学者は、以下のとおりである。

William, S. Sly, M.D. Washington 大学医学科小児科、産科婦人科、生化学第1に講演「The Role of Acidification in Receptor-mediated Transport of Acid Hydrolases to Lysosomes」⑤8・10・29

Paula, H. Stern, M.D. Northwestern Univ. 教授「Immunofluorescence in dermatitis」⑤8・10・29

Joe Yamamoto, M.D. UCLA 精神科教授「共同研究のため本学精神医学教室訪問」⑤8・9・2

Kirk, D. Wupper, Professor, Department of Dermatology, The Oregon Health Sciences Univ. 教授「Immunofluorescence in dermatitis」⑤8・10・16

J. L. Posch, M.D. U.S.A. Mayne Univ. Medical School 教授「第二十六回日本手の外科学会参加(福大整形外科主催)「Tumors of the Hand」」⑤8・9・31~58・9・20

Göran, Lundborg, Sweden Melmo Hospital 助教授「第二十六回日本手の外科学会参加(福大整形外科主催)「Sport Injuries of the Hand」」⑤8・9・19~58・9・20

J. H. Dobryn, M.D. U.S.A. Mayo Clinic Hand Clinic の Chief ②第二十六回日本手の外科学会参加(福大整形外科主催)「Sport Injuries of the Hand」⑤8・5・19

J. B. Maten, M.D. Bulgaria, Sofia 大学教授「第二十六回日本手の外科学会参加(福大整形外科主催)「Surgery of the Spastic Hand」」⑤8・5・19

Ernanno, Bonucci, M.D. ①イタリア②大学病理学教授「骨質異常(osteoporosis)の視察及び討論」⑤8・10・25

Mohinder P. Samhi, M.D. UCLA 教授「内科学第1」十周年記念講演「The selection of initial drug therapy for mild hypertension」⑤8・4・16

Jules, Constant, M.D. N.Y. State Univ. 教授「内科学第1」に講演「胸痛の鑑別診断」⑤8・9・1

R. L. Dawkins, M.D. Head of Department of Clinical Immunology, Royal Perth Hospital, Perth, Western Australia ②内科第1に講演「Recent topics on Clinical Immunology」⑤8・9・30

游文治 ①台湾彰化基督教醫院 精神科主治医師②精神医学西園昌久教授を訪問、③本学精神科を訪問、④本学精神科を訪問、⑤本学精神科を訪問、⑥本学精神科を訪問、⑦本学精神科を訪問、⑧本学精神科を訪問、⑨本学精神科を訪問、⑩本学精神科を訪問、⑪本学精神科を訪問、⑫本学精神科を訪問、⑬本学精神科を訪問、⑭本学精神科を訪問、⑮本学精神科を訪問、⑯本学精神科を訪問、⑰本学精神科を訪問、⑱本学精神科を訪問、⑲本学精神科を訪問、⑳本学精神科を訪問、㉑本学精神科を訪問、㉒本学精神科を訪問、㉓本学精神科を訪問、㉔本学精神科を訪問、㉕本学精神科を訪問、㉖本学精神科を訪問、㉗本学精神科を訪問、㉘本学精神科を訪問、㉙本学精神科を訪問、㉚本学精神科を訪問、㉛本学精神科を訪問、㉜本学精神科を訪問、㉝本学精神科を訪問、㉞本学精神科を訪問、㉟本学精神科を訪問、㊱本学精神科を訪問、㊲本学精神科を訪問、㊳本学精神科を訪問、㊴本学精神科を訪問、㊵本学精神科を訪問、㊶本学精神科を訪問、㊷本学精神科を訪問、㊸本学精神科を訪問、㊹本学精神科を訪問、㊺本学精神科を訪問、㊻本学精神科を訪問、㊼本学精神科を訪問、㊽本学精神科を訪問、㊾本学精神科を訪問、㊿本学精神科を訪問、

Frank, T. Barfery, M.D. アメリカ、テキサス州スプリングフィールド、②本学精神科を訪問、③本学精神科を訪問、④本学精神科を訪問、⑤本学精神科を訪問、⑥本学精神科を訪問、⑦本学精神科を訪問、⑧本学精神科を訪問、⑨本学精神科を訪問、⑩本学精神科を訪問、⑪本学精神科を訪問、⑫本学精神科を訪問、⑬本学精神科を訪問、⑭本学精神科を訪問、⑮本学精神科を訪問、⑯本学精神科を訪問、⑰本学精神科を訪問、⑱本学精神科を訪問、⑲本学精神科を訪問、⑳本学精神科を訪問、㉑本学精神科を訪問、㉒本学精神科を訪問、㉓本学精神科を訪問、㉔本学精神科を訪問、㉕本学精神科を訪問、㉖本学精神科を訪問、㉗本学精神科を訪問、㉘本学精神科を訪問、㉙本学精神科を訪問、㉚本学精神科を訪問、㉛本学精神科を訪問、㉜本学精神科を訪問、㉝本学精神科を訪問、㉞本学精神科を訪問、㉟本学精神科を訪問、㊱本学精神科を訪問、㊲本学精神科を訪問、㊳本学精神科を訪問、㊴本学精神科を訪問、㊵本学精神科を訪問、㊶本学精神科を訪問、㊷本学精神科を訪問、㊸本学精神科を訪問、㊹本学精神科を訪問、㊺本学精神科を訪問、㊻本学精神科を訪問、㊼本学精神科を訪問、㊽本学精神科を訪問、㊾本学精神科を訪問、㊿本学精神科を訪問、

Jeff, Russel, Investigator, Sandoz Laboratories ②産科婦人科学に講演「プロモクリチンの臨床的応用」⑤8・6・30

松崎昭夫(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会⑤7・6・7~58・5・7

木田浩隆(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会出席⑤8・9・18~58・10・1

調 重昭(耳鼻咽喉科第1) ①韓国②第五回アジア・オセアニア耳鼻咽喉科学会出席⑤8・10・18

池原征夫(生化学第1) ①アメリカ(UCLA)②ボストン発表⑤8・4・22~58・5・6

古川達雄(薬理学) ①フランス(ニース)②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席⑤8・6・58

菊池昌弘(病理学第1) ①西ドイツ②日本③ヨーロッパ細胞性リンパ腫組織学的検討会出席⑤8・8・30~58・9・20

寺崎邦生(波部重久(寄生虫学)①韓国②第十四回熱帯医学セミナー出席⑤8・6・6~58・6・12

奥村 恂(藤田晃一(内科学第1) ①アメリカ② Conference on Peptic ulcers and H₂ receptor antagonists 出席⑤8・8・25~58・8・29

荒川規矩男(内科学第1) ①フランス②局所血流に関する国際会議出席⑤8・8・29~58・9・6

吉田 稔(内科学第1) ①中国②「臨床呼吸器生理及び呼吸器病学的」に「講義」中国医科大学に「中国辽宁省沈阳市」⑤8・9・21~58・9・28

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

本手の外科学会参加(福大整形外科主催)「Sport Injuries of the Hand」⑤8・5・19

J. B. Maten, M.D. Bulgaria, Sofia 大学教授「第二十六回日本手の外科学会参加(福大整形外科主催)「Surgery of the Spastic Hand」」⑤8・5・19

Ernanno, Bonucci, M.D. ①イタリア②大学病理学教授「骨質異常(osteoporosis)の視察及び討論」⑤8・10・25

Mohinder P. Samhi, M.D. UCLA 教授「内科学第1」十周年記念講演「The selection of initial drug therapy for mild hypertension」⑤8・4・16

Jules, Constant, M.D. N.Y. State Univ. 教授「内科学第1」に講演「胸痛の鑑別診断」⑤8・9・1

R. L. Dawkins, M.D. Head of Department of Clinical Immunology, Royal Perth Hospital, Perth, Western Australia ②内科第1に講演「Recent topics on Clinical Immunology」⑤8・9・30

游文治 ①台湾彰化基督教醫院 精神科主治医師②精神医学西園昌久教授を訪問、③本学精神科を訪問、④本学精神科を訪問、⑤本学精神科を訪問、⑥本学精神科を訪問、⑦本学精神科を訪問、⑧本学精神科を訪問、⑨本学精神科を訪問、⑩本学精神科を訪問、⑪本学精神科を訪問、⑫本学精神科を訪問、⑬本学精神科を訪問、⑭本学精神科を訪問、⑮本学精神科を訪問、⑯本学精神科を訪問、⑰本学精神科を訪問、⑱本学精神科を訪問、⑲本学精神科を訪問、⑳本学精神科を訪問、㉑本学精神科を訪問、㉒本学精神科を訪問、㉓本学精神科を訪問、㉔本学精神科を訪問、㉕本学精神科を訪問、㉖本学精神科を訪問、㉗本学精神科を訪問、㉘本学精神科を訪問、㉙本学精神科を訪問、㉚本学精神科を訪問、㉛本学精神科を訪問、㉜本学精神科を訪問、㉝本学精神科を訪問、㉞本学精神科を訪問、㉟本学精神科を訪問、㊱本学精神科を訪問、㊲本学精神科を訪問、㊳本学精神科を訪問、㊴本学精神科を訪問、㊵本学精神科を訪問、㊶本学精神科を訪問、㊷本学精神科を訪問、㊸本学精神科を訪問、㊹本学精神科を訪問、㊺本学精神科を訪問、㊻本学精神科を訪問、㊼本学精神科を訪問、㊽本学精神科を訪問、㊾本学精神科を訪問、㊿本学精神科を訪問、

Frank, T. Barfery, M.D. アメリカ、テキサス州スプリングフィールド、②本学精神科を訪問、③本学精神科を訪問、④本学精神科を訪問、⑤本学精神科を訪問、⑥本学精神科を訪問、⑦本学精神科を訪問、⑧本学精神科を訪問、⑨本学精神科を訪問、⑩本学精神科を訪問、⑪本学精神科を訪問、⑫本学精神科を訪問、⑬本学精神科を訪問、⑭本学精神科を訪問、⑮本学精神科を訪問、⑯本学精神科を訪問、⑰本学精神科を訪問、⑱本学精神科を訪問、⑲本学精神科を訪問、⑳本学精神科を訪問、㉑本学精神科を訪問、㉒本学精神科を訪問、㉓本学精神科を訪問、㉔本学精神科を訪問、㉕本学精神科を訪問、㉖本学精神科を訪問、㉗本学精神科を訪問、㉘本学精神科を訪問、㉙本学精神科を訪問、㉚本学精神科を訪問、㉛本学精神科を訪問、㉜本学精神科を訪問、㉝本学精神科を訪問、㉞本学精神科を訪問、㉟本学精神科を訪問、㊱本学精神科を訪問、㊲本学精神科を訪問、㊳本学精神科を訪問、㊴本学精神科を訪問、㊵本学精神科を訪問、㊶本学精神科を訪問、㊷本学精神科を訪問、㊸本学精神科を訪問、㊹本学精神科を訪問、㊺本学精神科を訪問、㊻本学精神科を訪問、㊼本学精神科を訪問、㊽本学精神科を訪問、㊾本学精神科を訪問、㊿本学精神科を訪問、

Jeff, Russel, Investigator, Sandoz Laboratories ②産科婦人科学に講演「プロモクリチンの臨床的応用」⑤8・6・30

松崎昭夫(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会⑤7・6・7~58・5・7

木田浩隆(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会出席⑤8・9・18~58・10・1

調 重昭(耳鼻咽喉科第1) ①韓国②第五回アジア・オセアニア耳鼻咽喉科学会出席⑤8・10・18

池原征夫(生化学第1) ①アメリカ(UCLA)②ボストン発表⑤8・4・22~58・5・6

古川達雄(薬理学) ①フランス(ニース)②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席⑤8・6・58

菊池昌弘(病理学第1) ①西ドイツ②日本③ヨーロッパ細胞性リンパ腫組織学的検討会出席⑤8・8・30~58・9・20

寺崎邦生(波部重久(寄生虫学)①韓国②第十四回熱帯医学セミナー出席⑤8・6・6~58・6・12

奥村 恂(藤田晃一(内科学第1) ①アメリカ② Conference on Peptic ulcers and H₂ receptor antagonists 出席⑤8・8・25~58・8・29

荒川規矩男(内科学第1) ①フランス②局所血流に関する国際会議出席⑤8・8・29~58・9・6

吉田 稔(内科学第1) ①中国②「臨床呼吸器生理及び呼吸器病学的」に「講義」中国医科大学に「中国辽宁省沈阳市」⑤8・9・21~58・9・28

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

腎臓疾患(腎臓病) ①泌尿器科②泌尿器科③泌尿器科④泌尿器科⑤泌尿器科⑥泌尿器科⑦泌尿器科⑧泌尿器科⑨泌尿器科⑩泌尿器科⑪泌尿器科⑫泌尿器科⑬泌尿器科⑭泌尿器科⑮泌尿器科⑯泌尿器科⑰泌尿器科⑱泌尿器科⑲泌尿器科⑳泌尿器科㉑泌尿器科㉒泌尿器科㉓泌尿器科㉔泌尿器科㉕泌尿器科㉖泌尿器科㉗泌尿器科㉘泌尿器科㉙泌尿器科㉚泌尿器科㉛泌尿器科㉜泌尿器科㉝泌尿器科㉞泌尿器科㉟泌尿器科㊱泌尿器科㊲泌尿器科㊳泌尿器科㊴泌尿器科㊵泌尿器科㊶泌尿器科㊷泌尿器科㊸泌尿器科㊹泌尿器科㊺泌尿器科㊻泌尿器科㊼泌尿器科㊽泌尿器科㊾泌尿器科㊿泌尿器科

Frank, T. Barfery, M.D. アメリカ、テキサス州スプリングフィールド、②本学精神科を訪問、③本学精神科を訪問、④本学精神科を訪問、⑤本学精神科を訪問、⑥本学精神科を訪問、⑦本学精神科を訪問、⑧本学精神科を訪問、⑨本学精神科を訪問、⑩本学精神科を訪問、⑪本学精神科を訪問、⑫本学精神科を訪問、⑬本学精神科を訪問、⑭本学精神科を訪問、⑮本学精神科を訪問、⑯本学精神科を訪問、⑰本学精神科を訪問、⑱本学精神科を訪問、⑲本学精神科を訪問、⑳本学精神科を訪問、㉑本学精神科を訪問、㉒本学精神科を訪問、㉓本学精神科を訪問、㉔本学精神科を訪問、㉕本学精神科を訪問、㉖本学精神科を訪問、㉗本学精神科を訪問、㉘本学精神科を訪問、㉙本学精神科を訪問、㉚本学精神科を訪問、㉛本学精神科を訪問、㉜本学精神科を訪問、㉝本学精神科を訪問、㉞本学精神科を訪問、㉟本学精神科を訪問、㊱本学精神科を訪問、㊲本学精神科を訪問、㊳本学精神科を訪問、㊴本学精神科を訪問、㊵本学精神科を訪問、㊶本学精神科を訪問、㊷本学精神科を訪問、㊸本学精神科を訪問、㊹本学精神科を訪問、㊺本学精神科を訪問、㊻本学精神科を訪問、㊼本学精神科を訪問、㊽本学精神科を訪問、㊾本学精神科を訪問、㊿本学精神科を訪問、

Jeff, Russel, Investigator, Sandoz Laboratories ②産科婦人科学に講演「プロモクリチンの臨床的応用」⑤8・6・30

松崎昭夫(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会⑤7・6・7~58・5・7

木田浩隆(整形外科第1) ①ドイツ②ドイツ整形外科学会出席⑤8・9・18~58・10・1

調 重昭(耳鼻咽喉科第1) ①韓国②第五回アジア・オセアニア耳鼻咽喉科学会出席⑤8・10・18

池原征夫(生化学第1) ①アメリカ(UCLA)②ボストン発表⑤8・4・22~58・5・6

古川達雄(薬理学) ①フランス(ニース)②Searl's Science Advisory Board Meeting 出席⑤8・6・58

菊池昌弘(病理学第1) ①西ドイツ②日本③ヨーロッパ細胞性リンパ腫組織学的検討会出席⑤8・8・30~58・9・20

寺崎邦生(波部重久(寄生虫学)①韓国②第十四回熱帯医学セミナー出席⑤8・6・6~58・6・12

奥村 恂(藤田晃一(内科学第1) ①アメリカ② Conference on Peptic ulcers and H₂ receptor antagonists 出席⑤8・8・25~58・8・29

荒川規矩男(内科学第1) ①フランス②局所血流に関する国際会議出席⑤8・8・29~58・9・6

吉田 稔(内科学第1) ①中国②「臨床呼吸器生理及び呼吸器病学的」に「講義」中国医科大学に「中国辽宁省沈阳市」⑤8・9・21~58・9・28

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

丹生恵子(小児科第1) ①アメリカ

本年度研究奨励賞

昭和五十八年度研究奨励賞が化学第二池原征夫教授に授与された。受賞論文は「カルシウム含有尿結石症の病態生化学的研究」である。表彰式は昭和五十八年八月二十五日午後二時より本学第一会議室にて行われ、伊東学長が表彰状の授与および祝辞を述べ、業績を称えた。



秋の医師国家試験合格者

昭和五十八年九月二十四、二十五日に行われた第七十六回医師国家試験に本学から五十四名が受験し、十八名が合格した。合格率は三十三・三%であった。合格者は以下の通りである。

高田 伸一 外科第1
高岸 和秀 内科第1
宮内 陽一 内科第1
大國 貴史 外科第1
緒方 周 精神科
瓦林 和也 外科第1
松岡 俊秀 皮膚科
筒井 千昭 小児科
井上 廣 長崎大整形外科
古賀美喜雄 内科第1
古林 修一 皮膚科
小谷野誠司 日本整形外科学会
末村 泰子 山口大内科第1

福岡大学医学会総会

および例会の報告

第六回総会
日時 昭和五十八年7月20日(水)
午後2時15分~

場所 福岡大学医学部臨床大講堂

議事 1. 報告事項
2. 役員改選
3. 57年度会計報告(案) (58年度予算案)
4. その他

第九回例会
日時 昭和五十八年7月20日(水)
午後2時半~

場所 福岡大学医学部臨床大講堂

講演 1. 産科婦人科学併任講師 清水 博 「細胞内 redox state からみた anoxia 負荷後の成獣および胎仔ホルモンの分泌」
2. 産科婦人科学併任講師 山田英智 「光照射膜の微細構造」
3. 産科婦人科学併任講師 石井惟友

編集後記

福岡大学医学部は昭和四十七年設置され、昨年十周年を祝し、本年は十一周年に当たる。大学病院は最高の診療を通じて臨床教育の場を提供し、卒前・卒後の教育に重要な役割を果たすものであるが、福岡大学病院は昭和四十八年に、暫定病院であった香椎病院を吸収して開設された。したがって本年が十周年にあたり、記念行事も行われ、本号を福岡大学病院の十周年の特集号として、併せて現在進行中の病院の増設策について記事に頂いた。今後整備されていくであろう関連病院なども含めて福岡大学病院が優れた教育機関として機能することが望まれる。

他方、本年度は役員改選の年に当り、新しいメンバーが決定した。

今後、人も施設も充実して、ますます立派な医学部に成長して行くことを、心から期待するものである。(古川記)

「PELLAGRA AMONG CHRONIC ALCOHOLICS: CLINICAL AND PATHOLOGICAL STUDY OF 20 NEGROPSY CASES」

司会 菊池昌弘教授

泌尿器科助手 平塚義治

「閉塞性腎障害に関する実験的研究」不完全尿管閉塞による腎機能の変化とその回復性の検討

司会 坂本公孝教授

整形外科教授 松崎昭夫

「整形外科学からみたトイ」の学生と医療事情

司会 高岸直人教授

公衆衛生学教授 重松賞

「サウジアラビアの癌事情」

司会 江崎廣次教授

解剖学第2教授 山田英智

「光照射膜の微細構造」

司会 三好篤彦教授